

## ■ピロリ菌<sup>きん</sup>について Q&A■

鈴鹿市医師会監修

### Q1)ピロリ菌<sup>きん</sup>って何<sup>なに</sup>?感染<sup>かんせん</sup>経路<sup>けいろ</sup>は?

ピロリ菌<sup>きん</sup>はヒトの胃内<sup>いない</sup>に感染<sup>かんせん</sup>する細菌<sup>さいきん</sup>で主に乳幼児期<sup>おもにゅうようじき</sup>の3-5歳頃<sup>さいころ</sup>に感染<sup>かんせん</sup>します。

感染<sup>かんせん</sup>経路<sup>けいろ</sup>は経口感染<sup>けいこうかんせん</sup>であり、日本<sup>にほん</sup>では、家族内感染<sup>かぞくないかんせん</sup>が主なものです。

小児<sup>しょうに</sup>では一過性感染<sup>いつかせいかんせん</sup>もあり、多く<sup>おほく</sup>の場合無症<sup>ぼあいむしょうじょう</sup>状<sup>じょう</sup>ですが、胃内<sup>いない</sup>での感染<sup>かんせん</sup>が持続<sup>じそく</sup>し、胃<sup>い</sup>の慢性炎症<sup>まんせいえんしやう</sup>、慢性胃炎<sup>まんせいいえん</sup>が徐々に進行<sup>じよじよしんこう</sup>し、数十年<sup>すうじゅうねん</sup>を経て胃がん<sup>へいがん</sup>が発生<sup>はっせい</sup>します。ピロリ菌<sup>きん</sup>に感染<sup>かんせん</sup>しても、すべてが症<sup>しょう</sup>状<sup>じょう</sup>を呈<sup>てい</sup>する訳<sup>わけ</sup>ではなく、多く<sup>おほく</sup>は無症<sup>むしょうじょう</sup>状<sup>じょう</sup>で経過<sup>けいこ</sup>します。

また感染<sup>かんせん</sup>していても、通常<sup>つうじょう</sup>の学校生活<sup>がっこうせいかつ</sup>や日常生活<sup>にちじょうせいかつ</sup>で他人<sup>たにん</sup>に感染<sup>かんせん</sup>させることはありません。

### Q2ピロリ菌<sup>きん</sup>感染<sup>かんせん</sup>治療<sup>ちりやう</sup>となる疾患<sup>しつかん</sup>は?

ピロリ菌<sup>きん</sup>感染<sup>かんせん</sup>に関連<sup>かんれん</sup>した病<sup>びやう</sup>気<sup>き</sup>として、胃がん<sup>いがん</sup>、慢性萎縮性胃炎<sup>まんせいしゆくせいいえん</sup>、胃十二指腸潰瘍<sup>いじゅうにしちやうかいやう</sup>、特発性血小板減少症<sup>とくはつせいけつしょうばんげんしょうじょう</sup>、胃マルトリンパ腫<sup>いしゆ</sup>などがあります。

小児<sup>しょうに</sup>でも心窩部痛<sup>しんかごつう</sup>などの上部消化管症<sup>じやうぶじやうかかんしやうじやう</sup>状<sup>じょう</sup>、貧血<sup>ひんけつ</sup>などがある場合には、胃カメラを  
行<sup>おこな</sup>い、胃<sup>い</sup>の状態<sup>じやうたい</sup>を診断<sup>しんだん</sup>し、ピロリ菌<sup>きん</sup>感染<sup>かんせん</sup>陽性者<sup>やうせいしや</sup>に対して除菌治療<sup>じよきんちりやう</sup>を行います。除菌<sup>じよきん</sup>

治療<sup>ちりやう</sup>が成功<sup>せいこう</sup>すると、潰瘍<sup>かいやう</sup>は再発<sup>さいはつ</sup>しなくなり、貧血<sup>ひんけつ</sup>は改善<sup>かいぜん</sup>し、将来<sup>しやうらい</sup>にわたりピロリ菌<sup>きん</sup>感染<sup>かんせん</sup>

関連疾患<sup>かんれんしつかん</sup>に罹患<sup>りかん</sup>することはほとんどありません。また、ピロリ菌<sup>きん</sup>感染<sup>かんせん</sup>者<sup>しや</sup>で男性<sup>だんせい</sup>は85歳<sup>さい</sup>

までに胃がん<sup>いがん</sup>に罹患<sup>りかん</sup>するのは約17%、女性<sup>じよせい</sup>では8%と報告<sup>ほうこく</sup>されています。

### Q3ピロリ菌感染の検査方法は？

今回、鈴鹿市が実施する中学生ピロリ菌検査は検尿(一次検査)にて実施しますが、擬陽性(陰性なのに陽性と結果がでること)の方もあることから、陽性の結果が出た方には、正確な診断を受けていただけるよう、鈴鹿市が指定する医療機関において受診し便検査(確定検査)を受けていただくことができます。

※中学生のピロリ菌検査の陽性率は5～10%程度です。

### Q4ピロリ菌除菌療法の時期・方法はどのようにすればよろしいでしょうか？

確定検査で陽性の方は、受診された医療機関で、対面にてピロリ菌感染および治療に関する説明をいたします。

ピロリ菌に感染と診断された方に対して、ピロリ菌を駆除することにより、胃がんの1次予防が可能であり、他のピロリ菌感染関連疾患の早期診断・治療に繋がります。

ピロリ菌の除菌は、胃の萎縮が進展する前に行う事が重要で、除菌後、胃の萎縮は進展せず、胃がんのリスクは少なくなります。除菌による胃がん予防効果は、40～49歳では93～98%、40歳未満ではほぼ100%予防可能と報告されています。

※除菌治療は、原則15歳以上で受けることができます。胃の調子が悪いと感じたら、そのままにせず、医療機関を受診し、御相談ください。